

伊那市 長谷

「溝口の郷を歩こう」 説明資料

古道・古刹・石仏

☆ボランティアガイド用☆

目次

桑田薬師堂	2 ページ
熱田神社	3 ページ
宗良親王	4 ページ
大徳王寺城址	5 ページ
御山様（宗良親王陵墓）	6 ページ
常福寺	7 ページ
中央構造線露頭	8 ページ
道標（原辻）	9 ページ
石造物（原才の神）	10 ページ

2019. 7. 12 改定2

2013. 7. 27 改定1

2012. 4. 25 初版

作成：溝口郷づくり会



<桑田薬師堂>

この土地に語り継がれている**日本武尊の物語**の中で「村人を苦しめていたヤマタノオロチを尊は戸台の河原で仕留めた。その時飛び散った鮮血はあたりを真っ赤に染めた。この河原をその後赤河原と人々は呼んだ。尊はその後退治した大蛇の首を溝口の郷の桑の大木の根元に埋めた。」とあります。

北側500mほどのところにある重要文化財熱田神社から桑田薬師堂周辺に桑田の地名が密集していることから、この周辺が何かしらの信仰の土地であったことがうかがえます。

創建時期などははっきりとしていませんが、境内にある県の天然記念物にも指定されたことのある**枝垂れ桜**の樹齢を推測してみても、その脇に立つ**女いちょうの巨木**を見てもながい歴史を疑うことはありません。またそうしたことを裏づけるかのように、拝殿内には市の文化財にも指定されている「**香時計**」という、仏事などに香を筋状に伏せ、それを焚きその燃える時間で時の長さを見た器具が残されています。

本尊は坐像と立像の二体の**薬師如来像**と思われるたいへん素朴な木像です。またその脇を**日光月光菩薩**が並び、「薬師三尊」という形式となっています。さらにその脇には**十二支神将**が左右六対ずつ配置され、須弥壇を形作っています。

こうした様子を見るに付け往時は多くの人々に信仰を集め参拝した薬師堂であったと推測できます。



<熱田神社>

皆さんが今居られるのは西鳥居です。

他に2つの鳥居(東側と南側)があり全部で3つあります。つまり出入り口が3つあり、**三方三ツ辻**といわれています。この神社は名古屋市にある熱田神宮の形影をお迎えして村人の守り神として祀られています。

正面に見えるのが**拝殿**(覆屋)で、**本殿**はその奥(東側)にあります。本殿の左右にはそれぞれ「おかみ社」(本殿北側)と「こだま社」(本殿南側)が祀られています。

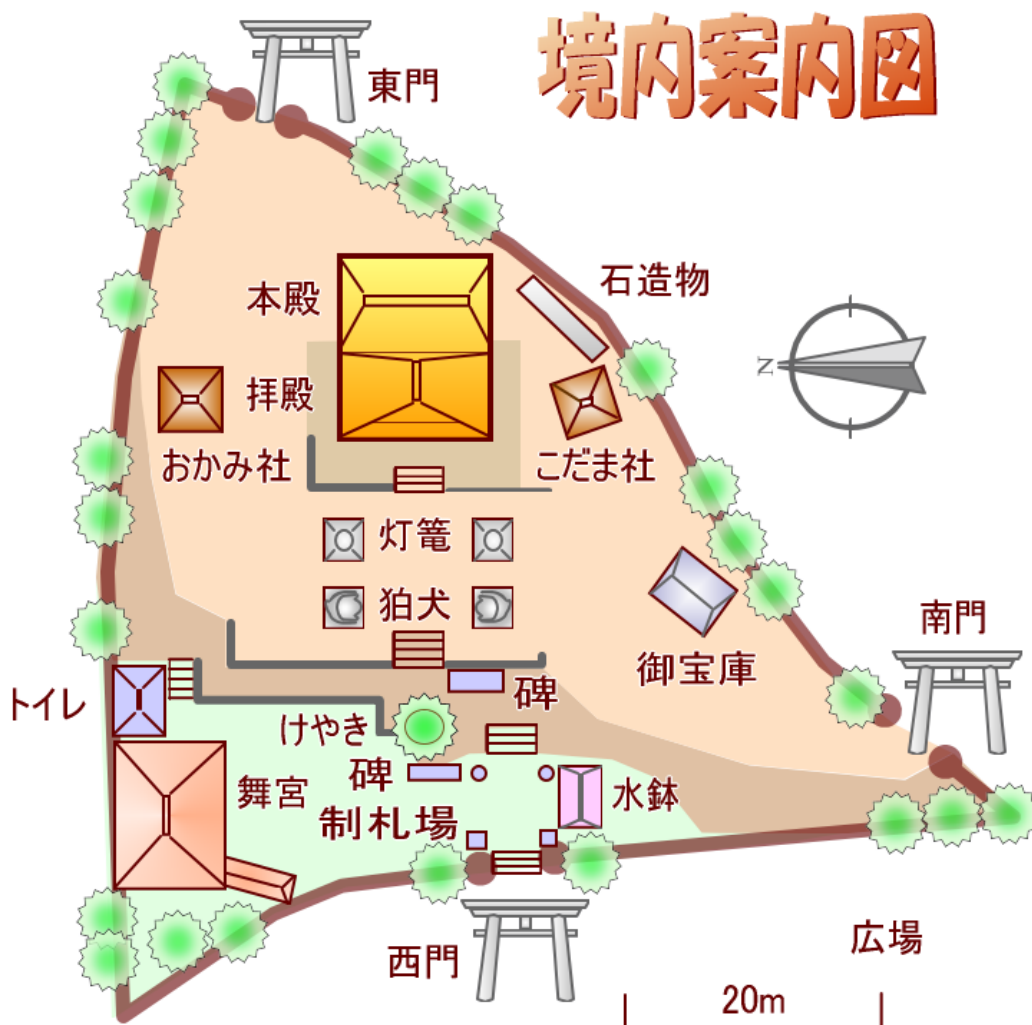
創建は明らかではありませんが、今から約680年前(南北朝時代)には建立し祀られていたようです。そして、1763年(宝暦13年、江戸中期)に現在の社殿が再建されました。建築は溝口村の**高見善八**、彫刻は東上州(群馬県)の**関口文次郎**が手がけ、日光の流れをくむ名匠二人の特殊な建築技法と彫刻技術が見事に調和し、**伊那日光**ともいわれています。

1993年(平成5年)に国の重要文化財に指定されました。

また、左手にある建屋は「**舞宮**」といい、踊りや芝居などの芸能を神に奉納するための舞台として使われてきました。

本殿には竜の彫り物が沢山あります。その中に**玉(宝珠)を持った竜**がいます。この玉に触ってお参りすると健康で幸せになるといわれています。

それに、「**気**」が感じられると言い伝えられている場所があります。一度その場所に立ってみてはいかがでしょう？きっと何かを感じられますよ(個人差もありますが)。



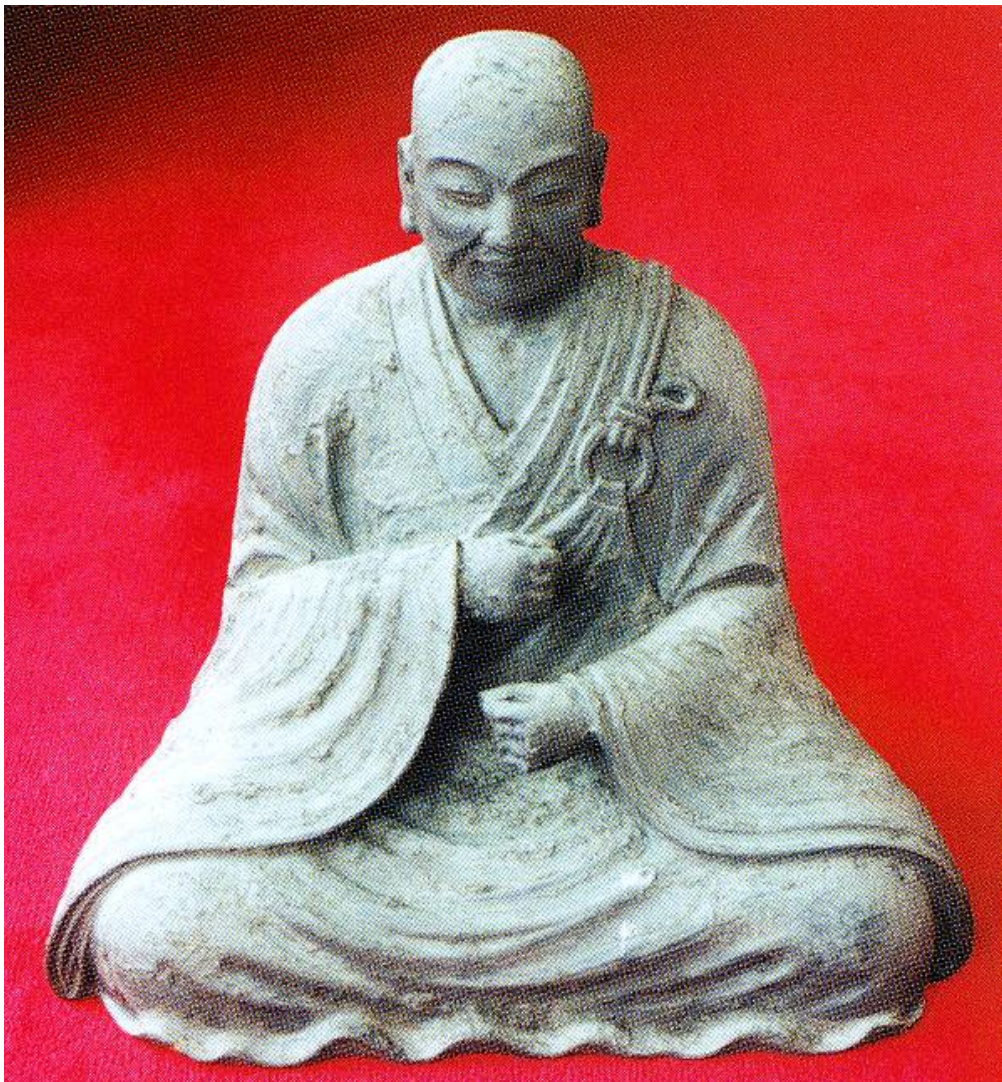
<宗良親王 (1311~1385?) [むねよし／むねなが しんのう] >

700年前の、南北朝対立の時代に、父 **後醍醐天皇** 母 歌道派の**二条為子**のもとに生まれる。動乱の世に 父帝の命を受け 南朝の皇子として吉野、遠江、越中、越後、信濃に生涯を**転戦・敗戦**する傍らで、**歌人**として多くの秀歌を詠む。残された歌と詞書からは時代の悲劇に遭遇した類い稀な詩心が、王朝の風体を護る歌を通して、寂寥に喘ぐ様が伝わる。現在の伊那市長谷から諏訪へ赴く山中深き峠にて、逆賊に迎え撃たれてその生は終焉を見たようだ。山に深く隠れ死す運命を予見していたか、歌が伝わる。

「我を世にありやと問はば信濃なるいなと答へよ嶺の松風」(そんなことは最早望まれまいが、万が一にもこの我が身のことを猶生きて世に居るやと問う人あったならば、否々、既にこの世を去られたか、行方もわからぬと、我に代わって、返事してくれよ、此の伊那の山の松風よ。)(川田順)

それから600年後の昭和15年5月12日長谷溝口の常福寺本堂屋根裏から僧形の宗良親王の坐像とその胎内中に古文書が発見され、その後常福寺に近接する**御山**に親王の子のユキヨシ親王が墓所を造営し無縫塔を祀ったことが判明した。宗良親王が南朝の再興をかけて山城をめぐる峠を超えてこの地を行き過ぎられた往時の御姿が偲ばれる。なお現在も当溝口地区では**春と秋に宗良親王奉賛会**を開いている。

宗良親王の事跡ついて、歴史愛好家や散策派ならば、南北朝時代の南信濃の街道を追想し山城や峠道を辿り学ぶ楽しみ、また文学的・文化的関心からは親王の残された**季花集**、**新葉和歌集**を味読する楽しみ が、いまだ秘境の事柄として残されている。



<大徳王寺城址>

溝口常福寺に隣接する宗良親王陵と伝わる「御山様」の後方高台に、**六角形の平地**があります。この地は鎌倉幕府滅亡のとき、南北朝の戦いのきっかけとなる事件、中先代の戦いの中心人物である、鎌倉幕府の執権北条高時の子**時行が、北朝足利尊氏率いる信濃の守護小笠原氏と4ヶ月に渡り対峙した**ことで知られる大徳王寺城址と伝えられています。この城は山を背にし、三方を深い谷に囲まれ、容易に切り崩すことのできない難攻不落の城でした。遂には兵糧が尽き時行は後方の山中に逃れました。

大鹿村大平城に居住した宗良親王は、この戦いには参戦していませんが、後の諏訪氏と連携するべくこの秋葉道を用い、大徳王寺にも滞在しました。南朝方にとって重要な寺城でした。

大徳王寺がどこにあるのかは謎とされていますが、高遠領内寺院開基帳(寛政10年、1798年写)には

溝口 太平山常宿寺 来芝充○大和尚 永禄二年(1459年)今二百十八年
→1241年?

溝口 松風峰大徳王寺 開基明光大徳聖人 弘安元年(1278年)今回百九十九年
に成る→1079年?

と記述があり、大徳王寺は常福寺とは同一ではありませんが、溝口に存在したことがわかります。その後大徳王寺は常福寺に合祀したようです。

(大正十年発行の上伊那史によれば常福寺は真言宗に属し、呑海和尚 文治三年(1187年)の開創、高遠町香福寺の末であり、開山当時は真言宗であったが、天正六年(1577年)あるいは永禄二年(1459年)わけあって曹洞宗に改める、とあります。)



<宗良親王陵（御山様）>

南北朝時代、後醍醐天皇の第三皇子（または第五皇子）の宗良親王は、足利尊氏ら北朝軍と対峙し、現在の大鹿村大平城を本拠地としていました。信濃の国諏訪氏は南朝方宗良親王を助け、大平城と諏訪の大神を結ぶ秋葉街道は南朝方にとって重要な道でした。

「新葉和歌集」や「李花集」撰者で、歌人としても知られる宗良親王はこの入野谷にも滞在し、数首の歌を詠んでいます。

われをよにありやととわばしなのなるいなとこたえよみねのまつかぜ
（桑田薬師堂のさくらを詠んだと言われる歌）

明治中期、溝口常福寺境内横の小山付近の沢で**円形の石碑**を拾い上げ、寺の基に安置しておきました。昭和6年、宗良親王の調査に来た郷土史家がこの石碑を見、文字を読んだところ正面に**十六弁菊花御紋章**の下に「**尊重法親王**」と書かれており、その左側に「**元中乙丑十月一日尹良**」と刻んであり、まだ終焉の地の判明しなかった宗良親王の御墓であることがわかりました。そして昭和15年、常福寺改修の際天井裏より木像が落下し、これには青銅製の千手観音像と共に胎内文書が隠されていました。これに宗良親王が逆賊により落命し、子尹良親王がその亡骸をこの地に埋葬したことが記されていました。また、昭和6年には常福寺位牌堂から親王に随従して戦死した新田一族六十余名の老若男女の戒名、俗名の書かれた位牌が発見されています。

当地溝口の住人は古くからこの小山を「御山様」と呼んで尊び、**5月と10月の年2回法要**を行い、戦いを嘆き悲しみ、歌を愛した平和主義者の宗良親王の霊を慰め、慕っています。



<常福寺>

太平山「常福寺」は曹洞宗のお寺です。
本尊は華嚴釈迦牟尼仏、本寺は高遠町勝間の「竜勝寺」です。

礼拝するときは「南無釈迦牟尼仏(なむしゃかむにぶつ)」とお唱えします。

現在のご住職は、第五世 松田泰俊(まつだたいしゅん)大和尚様です。

本堂には後醍醐天皇の皇子 宗良親王像と伝えられる坐像が安置され、親王を偲ぶ資料が展示されています。

檀徒の葬式法事、先祖供養、それに毎年春と秋に行われている「宗良親王法要」や、子供たちの寺子屋としての催事など、いろいろな行事が営まれています。

境内東裏の土手に春先いち早く福寿草が花開き春の訪れをつげます。4月半ば頃から境内西側の枝垂れ桜が見ごろを迎えます。5月半ばには牡丹につつまれ、そしてアジサイへと移り変わります。



<中央構造線露頭>

みなさんの居られる、この地は**日本列島が形成される時**に大陸が移動した痕跡がみられます。向かって右側が太平洋プレート、左側がユーラシアプレートの岩石です。

移動した距離は 60kmとも言われ、その**長さは 1000km**におよび、九州の八代から千葉県に達していると言われていています。

先日の東日本大震災もこうした大陸の移動によって引き起こされたものです。

みなさん、向こう(南方)の山の少しへこんだ所をご覧ください。最近、気のブームで知られるようになった**分杭峠**です。

構造線はこの峠を通りお隣の大鹿村へと続いています。

構造線の上は**気の出る場所**が多いと言われ、伊勢神宮、吉野、高野山、なども構造線上にあります。

また糸魚川、静岡構造線の上には、身延山久遠寺、久能山東照宮など有名な霊場があります。

昔の人たちも、お寺や、お宮をつくる時には何か感じる場所を見つけ建物を立てたと思われま

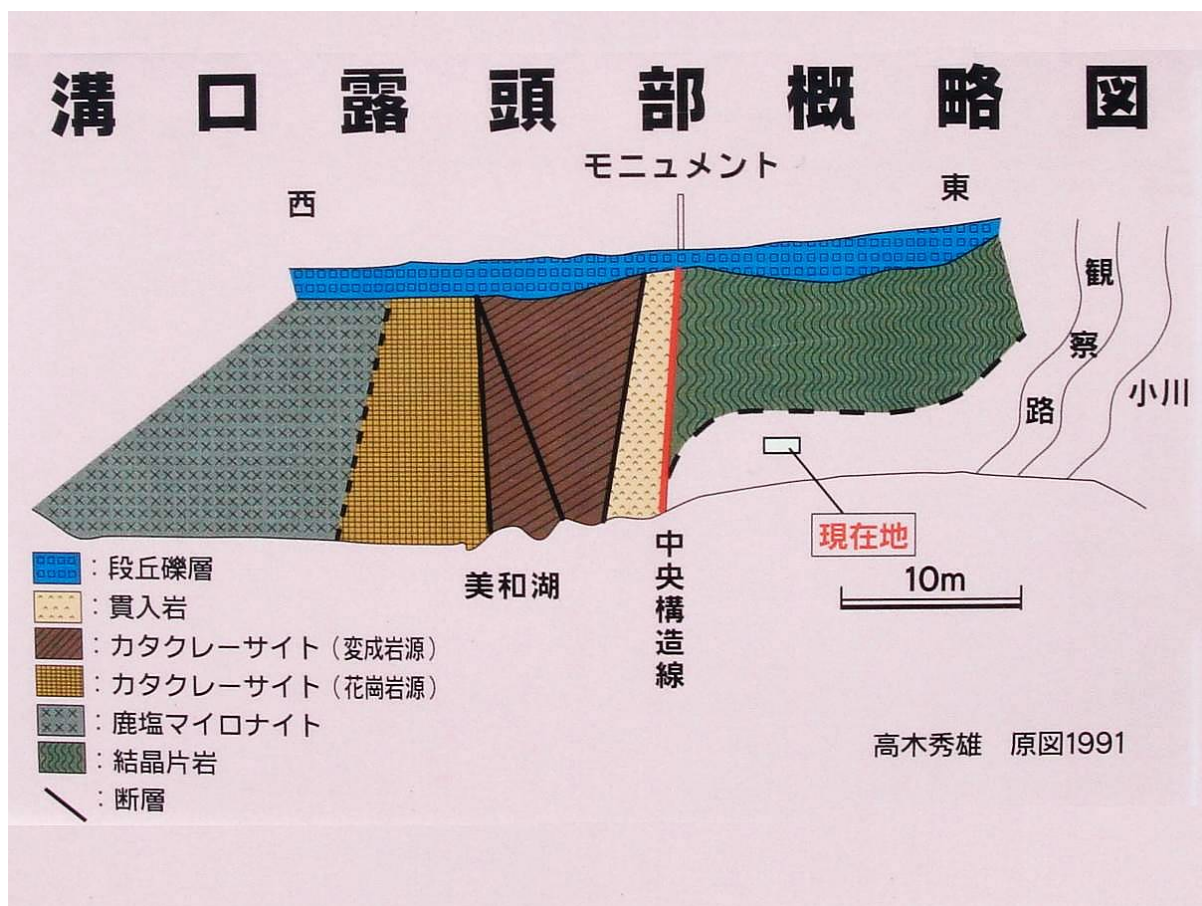
余談ですが、みなさんご覧になった方もおられるかと思いますが、この近くの熱田神社でも気を感じると言われていています。

境内に座っているだけで視力が回復した人の話も聞いております。

まだお参りしてない方は是非お立ち寄り下さい。

尚、お賽銭は多いほうがご利益が有るそうです。

ありがとうございました。ではゆっくりご覧になって下さい。



<道標 (みちしるべ)>

ここは溝口の原辻という地籍です。国道 152 号線沿いなので車に気を付けてください。
ここには十数個の石造物がまとめて置かれています。

以前は別なところにあったものが道路の整備などでこの場所に移動されたものも含まれています。向かって右端のいちばん南側にある高さ60センチメートル程の自然石らしきものがその**道標**です。風化が進んで読みにくいのですが「**右むら、左あきは道**」と刻まれています。「あきは道」とは秋葉街道(古道)のことで、「右むら道」とは原集落への道を指しています。この道標は**以前は美和バス停付近**の辻にあったそうです。

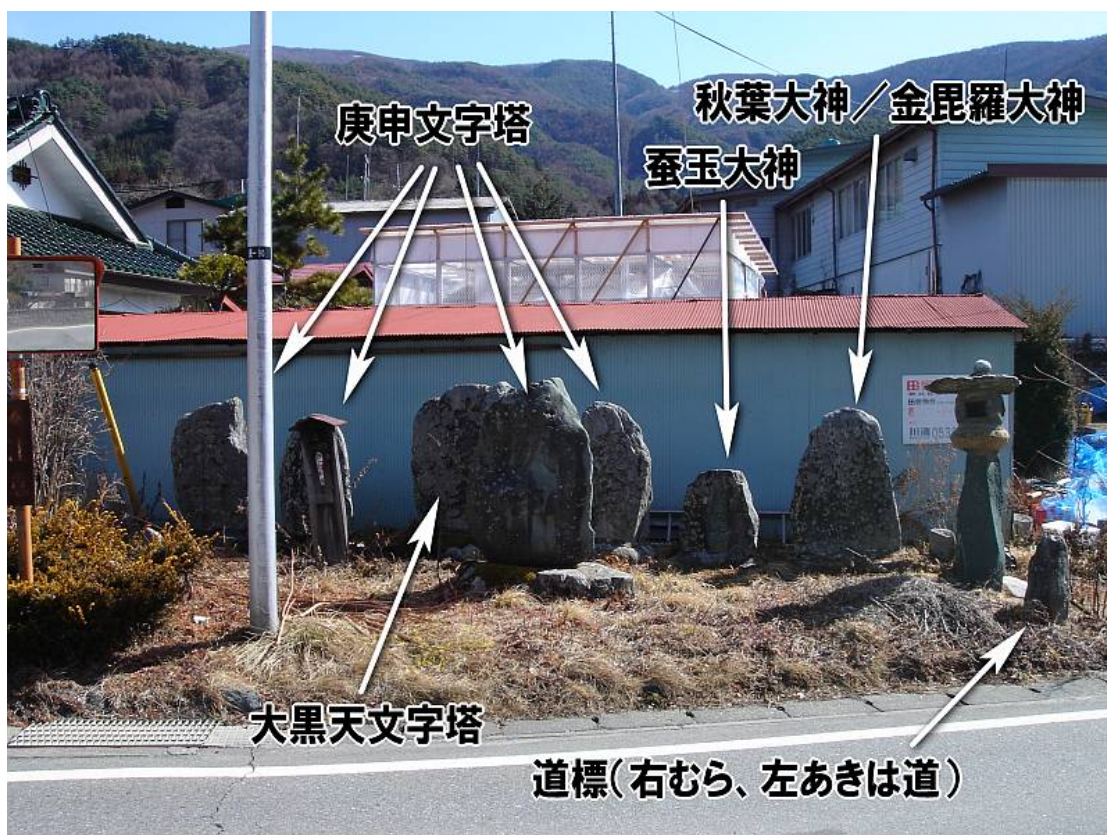
木立に印をつけたり木の枝を折ったりまたは石を積んで方向を示したりという原始的な形から始まり、自然石や石柱に刻むようになり、道標として独立していきました。

その他の石造物についても一緒に見てまいりたいと思います。

手前真ん中に**庚申文字塔**(1980年造立)があり、これが一番新しく、向かって左奥に庚申文字塔が2つ並び、**大黒天文字塔**をはさんで右側にもう1つ庚申文字塔(1800年造立)があり、順に古くなっているようです。庚申塔は60年周期でやってくる庚申(かのえさる)の年毎に建てられていますので、江戸時代末期からの歴史が脈づいていることになります。

また、奥中央の一番古い庚申塔の右から順に、**蚕玉大神**(1924年)・**秋葉大神**／**金毘羅大神**・**墓石**(1947年)・**駒岳山大神**・**光明山摩利支天尊**、それに手前左端の**天神**と各々文字が刻まれた文字塔が1つずつあります。

その他、常夜灯と文字が刻まれた**石灯籠**と秋葉山の**お札入れ**があります。



<原才の神の石造物>

ここは溝口の原才の神という地籍です。

才の神の「才＝さい」は「遮る」とか「塞ぐ」という意味を持つものと推察されます。

道祖神は、大昔からの民間信仰の代表的なもので、どこの村にもあり、集落の入口などに置かれていました。悪い人や厄病神などの侵入を防ぎ、良縁・子宝・豊作をつかさどり、行路の安全を護り、さらに厄落としの神さまとして崇められてきました。

それでは、ここの道祖神場にある石造物を順に見て参りましょう。

右手にあるのは大きな自然石に豪快達筆な**文字で道祖神**と刻まれています。

ひとつおいて左側に仲良く並んだ二人の人が浮き彫りされた像(**双体道祖神**)があります。右側の少し背の高いのが男神で左が女神です。男神は左手に杯を持ち、女神は右手に大きな徳利をぶら下げています。そしてお互いに手を握りあっているのが分かります。これは「**双体握手祝言像**」といわれています。単体の像もありますがこの双体像が最も普通の姿で、江戸時代中期以降に造立されたものがほとんどです。

私たちの祖先がそれにふさわしいと感じたり、いかにも靈験がありそうで語り継がれてきた奇怪な形をした石が道祖神場に置かれていることがよくあります。双体像の左隣に置かれている**2つの陽石**と背後に並べられている**10個近い奇石**がそうです。

陽石と(ここにはありませんが)陰石は子孫繁栄を祈願するといった直接的な信仰を表していて道祖神が性神といわれるゆえんでもあります。

また丁度中ほどに、馬の顔を彫刻した冠を頂き合掌している観音像があります。これは**馬頭観音**で、大切な馬の健康や死んだ愛馬の冥福を祈る対象とされ、たいていは死馬を葬ったところとか山道などの交通の難所、追分などに設置され、道標を兼ねたものも沢山あります。一般的には簡単な文字を刻んだ供養塔が多く遺されています。

